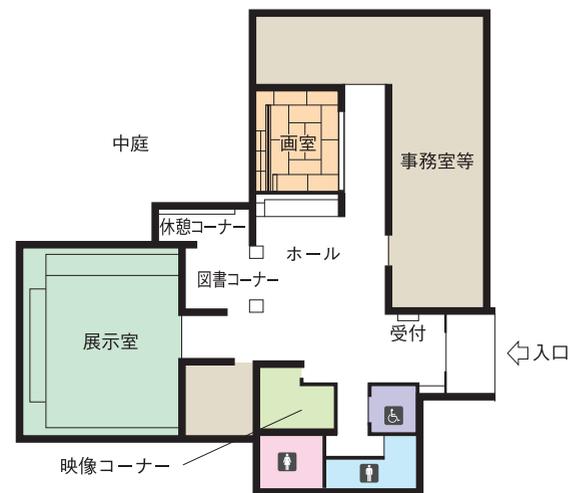


## 建物概要



□敷地面積	1,007.52㎡
□建物面積	496.17㎡
□延床面積	464.96㎡
□建物構造	鉄筋コンクリート造平屋建
□諸室面積	
展示室	93㎡
画室	28㎡
映像コーナー	16㎡
ホール・休憩・図書コーナー	228㎡

## ご案内

### ◆展覧会

多角的な視点で作家の画業をとらえ、テーマに沿った展示をします。収藏品展のほか、特別展を開催します。

### ◆ワークショップ等

年間を通してさまざまな講座やイベントを開催し、鐮木清方の画業及び日本画や版画の普及に努めています。

### ◆調査研究

鐮木清方唯一の記念館として、その画業の調査研究を深め、叢書図録を発行しています。

### ◆その他美術情報の提供

映像コーナーにおいて、オリジナル番組「鐮木清方の生涯」「鐮木清方記念美術館収蔵作品紹介」を放映します。また、絵画検索システムにより、作品・資料の閲覧ができます。

### ◆ミュージアムグッズ

当館オリジナルの絵はがき、一筆箋などグッズや図録を数多く取りそろえています。

## 利用案内

**開館時間**：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

**休館日**：月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日を休館）  
年末年始（12月29日～1月3日） 展示替期間など

**観覧料**：

区分	一般	小・中学生
企画展	300円(210円)	150円(100円)
特別展	450円(310円)	220円(150円)

※( )内は20名以上の団体料金です。

※鐮倉市民(市内に住所を有する方)は無料となります。入館の際に住所が確認可能な証明書(運転免許証、国民健康保険証等)をご提示ください。

※鐮倉市内在学の小・中学生は無料となります。

※身体障害者手帳などの交付を受けた方と介助の方1名は無料となります。

## 交通案内

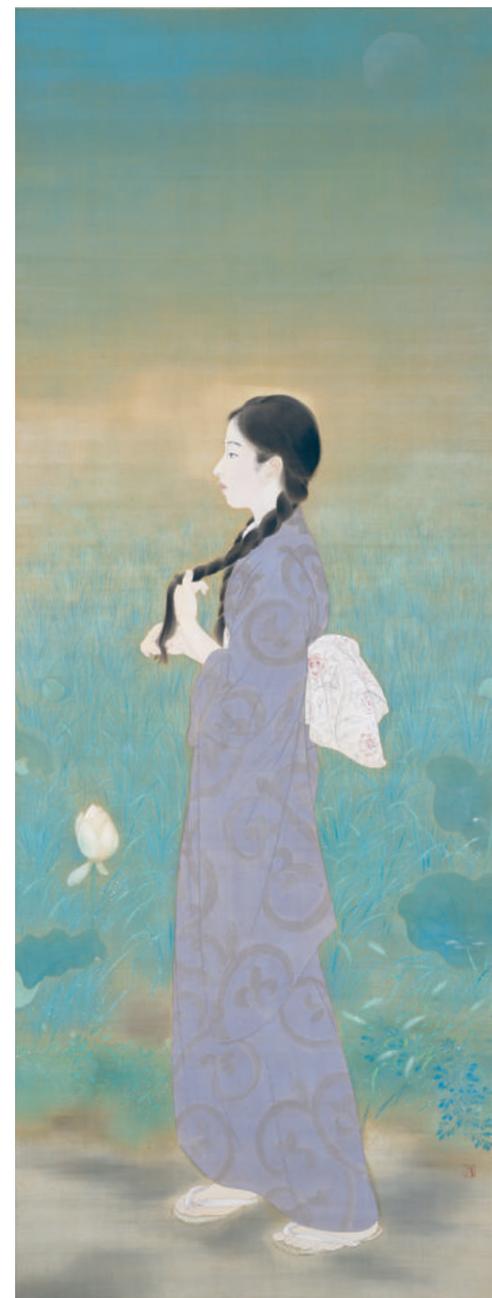
JR横須賀線・江ノ電「鐮倉駅」下車、小町通りを北に徒歩7分左折。  
※駐車場・駐輪場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 鐮倉市芸術文化振興財団  
(鐮倉市鐮木清方記念美術館指定管理者)  
〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下一丁目5番25号  
Tel.0467-23-6405 Fax.0467-23-6407  
<http://www.kamakura-arts.or.jp/kaburaki/>



2022.04



朝涼 大正14年(1925)

## 鎌倉市鐮木清方記念美術館

KAMAKURA CITY KABURAKI KIYOKATA MEMORIAL ART MUSEUM

## 鎌倉市鐮木清方記念美術館

当館は、近代日本画の巨匠鐮木清方画伯の終焉の地、鐮倉雪ノ下の旧居跡に建てられました。古都鐮倉の閑静な住宅地の中に、和風建物が端正なたたずまいをみせています。

鐮木清方は、明治11年、東京神田に生まれました。幼い頃から文芸に親しんで育ち、その画業のはじまりは挿絵画家からでした。のちに肉筆画に向い、清らかで優美な女性の姿や、いきいきとした庶民生活、肖像、愛読した樋口一葉や泉鏡花などの文学を主な題材として描かれた作品は、市井の人々への共感や慈愛のまなざしが感じられます。

鐮倉とのゆかりは、昭和21年に材木座に居を構えた時からです。昭和29年、文化勲章受章の年よりここ雪ノ下に画室をもうけ、昭和47年に93歳で亡くなるまでの間を過ごしました。

清方は晩年、自らの境地を「市民の風懐にあそぶ」と称して、庶民生活を題材にした作品を多く手がけました。情趣あふれる日本画作品、また典雅な文体による随筆を多く残しています。

平成6年、ご遺族から鐮倉市にその画業と創作の場を後世に伝えてほしいという趣旨のもと、美術作品・資料と土地建物が寄贈されました。これを受け、平成10年4月に記念美術館として開館しました。

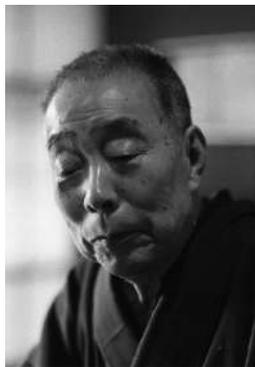
ご来館の皆様には、清方の芸術と生活を偲びつつ、安らぎのひとつをお過ごしいただければ幸いです。



外観

## 鏑木清方の歩み

和暦(西暦)	満年齢	事項
明治11年(1878)		8月31日、東京神田に生まれる。本名健一。父は『東京日日新聞』(現・毎日新聞)の創始者の一人で、戯作や劇評も手がけた優れた文人の條野採菊。父の影響を受け、幼い頃から文芸に親しんで育つ。
24年(1891)	13	父や三遊亭圓朝の勧めもあり、挿絵画家を目指し、水野年方入門。
26年(1893)	15	師の年方から「清方」の号を授けられる。
27年(1894)	16	父が社長を務める『やまと新聞』の挿絵を担当。
30年(1897)	19	『東北新聞』の挿絵を担当し、独り立ちする。
34年(1901)	23	「烏合会」を結成。泉鏡花著『三枚續』の口絵と装幀を依頼され、鏡花と親交を結ぶ。この頃から日本画への関心を深め、特に文学から題材を得た作品を多く発表しはじめる。
36年(1903)	25	文芸界をリードした雑誌『文藝倶楽部』の口絵を飾るようになり、挿絵作家としての地歩を固める。
大正4年(1915)	37	伊東深水、寺島紫明ら清方の門下生により、『郷土会』が結成される。第9回文展で『霽れゆく村雨』が最高賞を受賞。
5年(1916)	38	吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘と共に「金鈴社」を結成。
8年(1919)	41	第1回帝国美術院展(帝展)の審査員を務める。
昭和2年(1927)	49	第8回帝展に『築地明石町』を出品。帝国美術院賞を受賞。名実ともに清方の名が世に知らしめられる。
5年(1930)	52	第11回帝展に『三遊亭圓朝像』を出品。この作品は平成15年(2003)、重要文化財に指定される。
12年(1937)	59	帝国芸術院設置に伴い、帝国芸術院会員となる。
19年(1944)	66	帝室技芸員に任命される。
21年(1946)	68	第1回日本美術展覧会(日展)の審査員を務める。戦禍で牛込矢來町の自宅を焼失していたため、疎開先の御殿場から鎌倉材木座に転居。
29年(1954)	76	文化勲章を受章する。鎌倉雪ノ下にて転居。
47年(1972)		3月2日、鎌倉雪ノ下にて逝去。享年93。



昭和31年5月  
鎌倉雪ノ下の自宅にて

## 施設案内



展示室



正面入口



中庭



画室

清方は、懇意にしていた建築家、吉田五十八氏に依頼した牛込矢來町の画室をたいそう気に入り、この雪ノ下旧宅2階にもそれを模して採り入れました。この画室は昭和29年建築当時の部材をそのまま使用して再現したものです。



ホール・休憩コーナー

## 庭の花暦

1月	梅、寒椿、水仙	7月	くちなし、きんしほい 梔子、金糸梅
2月	梅、寒椿	8月	さるすべり むくげ、百日紅
3月	れんぎょう、雪柳	9月	ほととぎす 萩、不如帰、吉祥草
4月	はなすおう モミジ(新緑)、花蘇芳	10月	きんもくせい、ほととぎす 金木犀、不如帰、吉祥草
5月	あやめ、つつじ、西洋岩南天	11月	さざんか モミジ(紅葉)、山茶花
6月	あじさい、鉄線花、柏葉あじさい	12月	万両(実)、寒椿

## 所蔵品紹介



襟おしろい 大正13年(1924)



金沢絵日記(部分) 大正12年(1923)

秋宵 明治36年(1903)



朝夕安居 朝(部分) 昭和23年(1948)

## ◆その他の所蔵品

一葉女史の墓	明治35年(1902)
ためさるゝ日(右幅)	大正7年(1918)
桜もみぢ(二曲一雙)	昭和7年(1932)
慶喜恭順	昭和11年(1936)
	など